

「液化水素サプライチェーンの商用化実証」において建設を進める 液化水素基地の起工式が開催されました

日本水素エネルギー株式会社（東京都港区）が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金事業として進めている「液化水素サプライチェーンの商用化実証」において、扇島地区（川崎市川崎区）に整備する**国際水素サプライチェーンの液化水素基地の起工式**が11月27日に開催されました。この基地は**液化水素の受入れ・貯蔵・海上荷役設備等を備えた世界初の商用規模**の施設となります。

この取組は、川崎臨海部の2050年カーボンニュートラル化を目指す「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」の実現だけでなく、扇島地区における地域の持続的発展と我が国の社会課題解決に資する大規模土地利用転換の早期実現にもつながるものです。

日本水素エネルギー株式会社は、JFEスチール株式会社（東京都千代田区）とJFEスチール東日本製鉄所（京浜地区）扇島の土地について賃貸借契約を締結するなど、本実証を進めてきました。

今回の起工式は、日本水素エネルギー株式会社と川崎重工業株式会社の主催により開催されたもので、川崎市長は来賓として出席し、懇親会では「水素社会に向けた第一歩となる」という主催者の熱意に、「この川崎の地から、日本を、世界を変えるようなプロジェクトに」と期待を込めて祝辞を述べました。



立柱式（ボルト締め）の様子



主催者・来賓によるくす玉開花

※本事業及び起工式の詳細につきましては、事業者ニュースリリースを御参照ください。

【問合せ先】

川崎市臨海部国際戦略本部 成長戦略推進部 野和田
電話：044-200-1740

2025年11月27日
日本水素エネルギー株式会社
川崎重工業株式会社

液化水素サプライチェーン商用化実証の主要施設となる 液化水素基地の起工式を開催 ～水素社会の実現に向けた新たなステップへ～

日本水素エネルギー株式会社（代表取締役社長：原田英一、以下「JSE」）と川崎重工業株式会社（代表取締役社長執行役員：橋本康彦、以下「川崎重工」）は、本日、川崎市扇島に建設する液化水素基地「川崎 LH₂ターミナル」の起工式を開催しました。

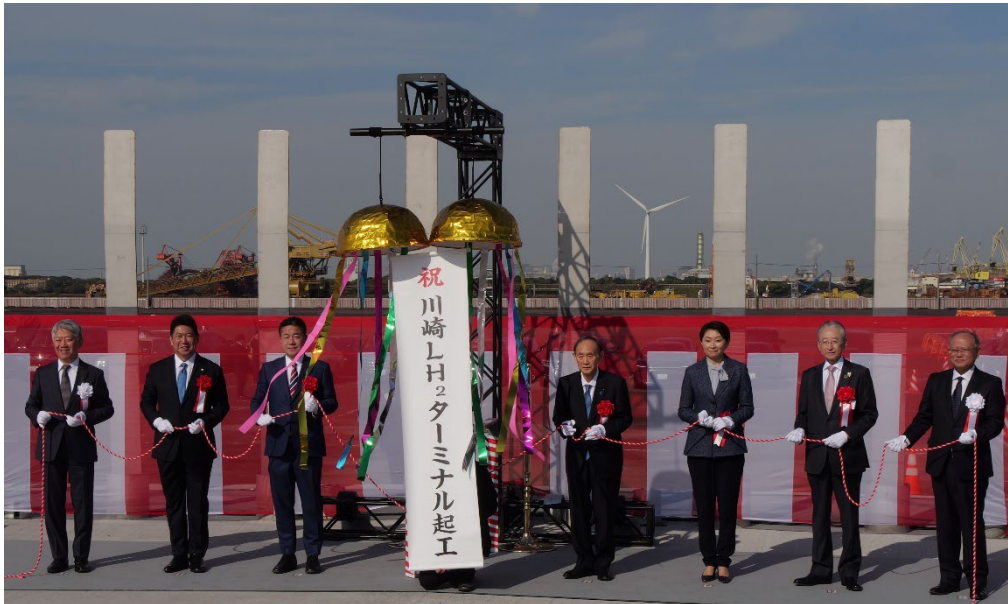
川崎 LH₂ターミナルは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が推進する「グリーンイノベーション基金事業」に採択された「液化水素サプライチェーンの商用化実証」（以下、商用化実証）の主要な設備で、世界最大級の液化水素貯蔵タンク（貯蔵容量 5 万 m³）、海上荷役設備（出荷 / 受入両機能を含む）、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備を備えた、世界初の商用規模の施設となります。JSE が事業主体となり、川崎重工を代表企業とする共同企業体が主要コントラクターとして、設備の設計・建設を担当します。また、今後建造を予定している液化水素運搬船（容量約 4 万 m³）も世界最大級の容量をもち、基地も併せたこれらの設備は、将来の水素サプライチェーンの本格運用に向けた基盤を形成します。



川崎 LH₂ターミナル完成予想図

商用化実証では、2030 年度までに川崎 LH₂ターミナルならびに液化水素運搬船の運用を行いながら、国際水素サプライチェーンの商用化の要件（性能、安全性、耐久性、信頼性、経済性等）を国内で確認します。

2030 年度以降は、海外から調達した液化水素を液化水素運搬船で日本へ輸入して、川崎 LH₂ターミナルで受入・貯蔵をした後に、国内の水素需要家への供給を目指します。



起工式の様子

写真左から：

川崎重工業株式会社 代表取締役社長執行役員 橋本康彦

川崎市市長 福田紀彦

経済産業大臣政務官 小森卓郎

元内閣総理大臣 衆議院議員 菅義偉

水素社会推進議員連盟 会長 衆議院議員 小淵優子

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 斎藤保

日本水素エネルギー株式会社 代表取締役社長 原田英一

■施設概要

場 所： 神奈川県川崎市川崎区扇島（JFE スチール株式会社敷地内）

主要設備： 液化水素貯蔵タンク（貯蔵容量 5 万m³）、海上荷役設備（出荷 / 受入両機能を含む）、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備

以上